

2019

公益財団法人お金をまわそう基金

Annual Report



日本で寄付文化を もっともっと広めていく

公益財団法人お金をまわそう基金では、多くの方からお預かりした寄付を社会課題の解決を目指す団体に助成することで、明るい未来をつくる活動を行っています。

責任もって助成先団体を選びます。

団体の活動を広め、共感とともに寄付を募ります。

集まった寄付は、全額団体に届けます。

公益財団法人お金をまわそう基金は、4周年を迎えました。

2019年は、11の助成先団体へ支援者のあたたかいご寄付を届けることができました。

当財団がこのような活動ができるのも「**お金をまわしてより良い世の中をつくる**」という想いを共にし、ご支援をいただいた皆さまのおかげです。

もくじ

4	ごあいさつ
6	えんづくりプラットフォーム
8	助成先団体と支援者をつなげる「縁づくり」
9	支援者の想いを100%届ける「円づくり」
	助成先団体紹介
11	特定非営利活動法人タイガーマスク基金
12	一般社団法人 Colabo
13	公益社団法人日本駆け込み寺
14	特定非営利活動法人クリエイト
15	特定非営利活動法人福岡教育サポート
16	特定非営利活動法人川崎寺子屋食堂
17	特定非営利活動法人森ノオト
18	一般社団法人日本パラアイスホッケー協会
19	公益財団法人山本能楽堂
20	公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO
21	特定非営利活動法人秋川流域生活支援ネットワーク
22	きもちのぜいたく
24	決算報告
26	寄付の取り扱いについて／寄付のお支払（決済）／税金控除

ごあいさつ



もともとと広い裾野から多くのご寄付をいただき、
それを社会の隅々にまでまわさせてもらうのだ。

ありがたいことに「お金をまわそう基金」の公益活動は、随分と世の中の知るところとなってきました。そのひとつとして、昨年度は世界でも著名な慈善団体から3年間の寄付が決まりました。

また、行政では対応が困難な課題の解決を目指す休眠預金等活用法が施行され、それに伴い社会還流を担う「一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)」が指定する資金分配団体のひとつとして当財団が選ばれました。これまでの公益活動を評価されたものです。

とは言うものの、まだまだ力不足をひしひしと感じます。私たちは、当初から4つの分野で活動する非営利団体を助成先に決めて、その活動への賛同とご支援を広く社会に訴えてきました。そのうち「子ども分野」への寄付と助成は順調に伸びていますが、他の「スポーツ」「文化伝統・技術」「地域経済・地域社会」の3つの分野は、まだ緒に就いたところといった状況です。

すではじまっています新年度では、出遅れている3つの分野に、とりわけ力を入れていきたいと、私たちは考えています。

いずれも意義のある、これからの日本社会において大事な分野です。私たちの活動に対する社会の認識が高まってくれば、一気に花開くだろうと期待しています。

一方「子ども分野」の助成先団体への寄付は、今後どんどん加速していくと思います。私たち自身、助成をはじめて随分と「子ども分野」に関する活動を学ばせていただきました。広い社会の片隅で実に多くの方々が真心を込めて、様々な境遇の子どもたちに温かい手を差し伸べておられます。

そういった方々の活動に、もっとも世の中の関心が高まること、そして多くの寄付が集まってくれることを強く願います。

そして、より良い社会をつくっていくという方向で、縁の下の力持ち的な役割を果たしていくのが、「お金をまわそう基金」の社会的使命と考えています。

公益財団法人お金をまわそう基金

代表理事 澤上 篤人



お金をまわして、 より良い社会をつくる 『えんづくりプラットフォーム』

非営利法人に必要なお金がまわり、社会課題が解決される社会となること。
必要なところにお金がまわる社会、それが 私たちが目指す未来です。

お金をまわそう基金が取り組んでいる活動

より良い社会を寄付でつくる助成事業

当財団は、助成先団体の活動を広め共感とともに集まった寄付金で対象事業への助成を行っています。助成先団体に対しては寄付金を集める方法や法人運営のアドバイスをを行い、将来的に自立できるように取り組んでいます。

より良い社会をつくるための課題に取り組む対象団体

- ① 児童または青少年の健全な育成を目的とする団体（子ども分野）
- ② 教育、スポーツ等を通じて豊かな人間性の育成を目的とする団体（スポーツ分野）
- ③ 文化および芸術の振興を目的とする団体（文化・伝統技術分野）
- ④ 地域社会の健全な発展を目的とする団体（地域経済・地域社会分野）

えんじゅくり

【縁】

(えん)

助成先団体の想いや活動
を、セミナーや体験活動
を通して伝えることで
共感の輪を広げます。

【円】

(えん)

共感とともに集まった寄付
金は、手数料など差し引く
ことなく一〇〇%助成先団
体へお届けします。

【〇】

(えん)

「こ縁」と「円」を積み重ね、
寄付で社会にお金が循環
する仕組みをつくりま



お金をまわそう基金の「新しい寄付のしくみ」

寄付金の100%を助成先団体・支援分野へ届けます

助成先団体・支援分野へ集められた寄付金は助成先団体の対象事業のために全額活用されます。頂いた寄付金から手数料や運営費などを差し引くことはありません。

税制優遇措置の対象となる公益財団法人です

当財団は、信頼性、透明性などの審査を受けて内閣府から認定された公益財団法人です。寄付金は、確定申告によって税制優遇措置を受けることができます。

助成先団体を厳正に選定します

助成先団体は、選考委員会によって、事業の公益性や実現性、予算の妥当性、組織規定などの視点から厳正に審査します。審査で認められた団体へ1年間助成し、助成の継続を希望する団体は毎年審査を行います。



【縁】

(えん)

助成先団体の想いや活動を、
セミナーや体験活動を通して
伝えることで共感の輪を広げます。



助成先団体と 支援者をつなげる「縁づくり」

当財団では、助成先団体と支援者をつなげ、支援・応援する方々に、より深く活動を知っていただくきっかけとして、セミナーや体験活動を実施しています。第4期はセミナー・体験活動を9回実施し、延べ220名の方にご参加いただきました。

また、「縁づくり」の一環として、当財団のスタッフがすべての助成先団体の活動現場に向き、事業の視察と活動体験を重ね、その内容をしっかりと支援者に伝えることに取り組んできました。

助成先団体に取り組む社会的課題や支援対象はそれぞれ異なりますが、各団体の方々と直接交流することで、ある共通した想いを感じることができました。それは、課題解決への強い意思と、支援対象者への深い寄り添いの気持ち、社会で見過ごされがちな物事への温かな眼差しです。

当財団では、助成先団体が想いを共有することで生まれる「新たなつながり」に期待し、各団体が集まる場を設けました。活発な意見交換がなされ、各団体の想いだけでなく、事業の強みや弱みなど新たな気づきを得る学びの機会にもなりました。

これがきっかけとなり、分野や課題を超えた助成先団体の合同セミナーやイベント出展など、これまでにない企画を立案・実施することができました。支援者にとっては、自身が応援する助成先団体だけでなく、他の団体の活動を知る機会となり、「寄付の選択肢が増えました」という嬉しいお言葉を多数いただきました。支援者と助成先団体そして当財団の「縁」をさらに強めることができた今期。第5期は全国の助成先団体の伴走支援や支援者との交流を通じて、より強固な「縁」を数多くつないでいきます。

支援者の想いを 100%届ける「円づくり」

第4期は、寄付者数、助成先団体にお届けした助成金額ともに、前期の約2.5倍と大きく数字を伸ばすことができました。また、助成申請額を8割以上達成した団体は11団体中5団体でした。

第4期では寄付者数や寄付金の増加を目的に、当財団のメールマガジン、ホームページ、SNSを通じたアンケートを実施し、当財団における寄付状況や当財団への関わり方、認識などを定量的に把握しました。(※アンケート実施:「認定NPO法人サービスグラント」)

アンケートからは、『回答者の75%が当財団の魅力を「寄付金手数料など差し引かれることなく、100%寄付したい団体へ届けられること」と回答』『回答者の44%が「お金をまわそう基金自体の活動をもっと発信してほしい」と回答』等、当財団の強みと課題を読み取ることができました。

現在の課題は、助成先団体11団体中7団体が「子ども分野」に属しており、それ以外の分野の選択肢が少ないことです。第5期は「子ども分野」はもちろんのこと、それ以外の分野も拡大させ、各団体の取り組みをわかりやすく伝えることで、より多くの寄付の選択肢を提示していきたいと考えています。また、当財団の知名度や事業の認知度向上のために、当財団の最も大きな特徴である「寄付金が100%助成先団体に届けられる」ことの魅力を発信し続け、新たな「円」の創出に挑戦していきます。

寄付者数 <small>(のべ)</small>	第2期	135人	第3期	557人	第4期	1,393人
助成団体数	第2期	4団体	第3期	7団体	第4期	11団体
助成額	第2期	429万円	第3期	577万円	第4期	1,556万円

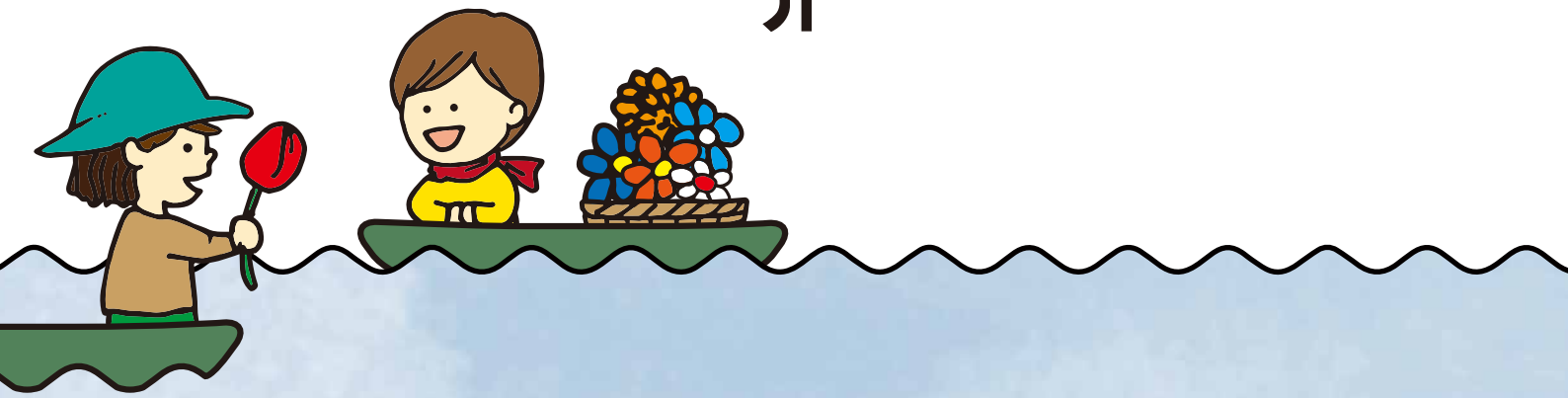
※寄付者数は複数回寄付している方や法人を含む。

※第2期は2016年12月1日から2017年11月30日、第3期は2017年12月1日から2018年11月30日、第4期は2018年12月1日から2019年11月30日

団体名	助成申請額	達成額	達成率
特定非営利活動法人タイガーマスク基金	3,075,000円	3,075,000円	100%
一般社団法人 Colabo	5,358,500円	5,032,544円	94%
公益社団法人日本駆け込み寺	1,500,000円	1,377,756円	92%
特定非営利活動法人クリエイト	2,675,000円	2,658,044円	99%
特定非営利活動法人福岡教育サポート	429,600円	429,600円	100%
特定非営利活動法人川崎寺子屋食堂	1,664,480円	1,297,825円	78%
特定非営利活動法人森ノオト	1,200,000円	102,913円	9%
一般社団法人日本パラアイスホッケー協会	1,500,000円	281,550円	19%
公益財団法人山本能楽堂	2,000,000円	81,940円	4%
公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO	1,200,000円	874,127円	73%
特定非営利活動法人秋川流域生活支援ネットワーク	1,465,310円	344,689円	24%

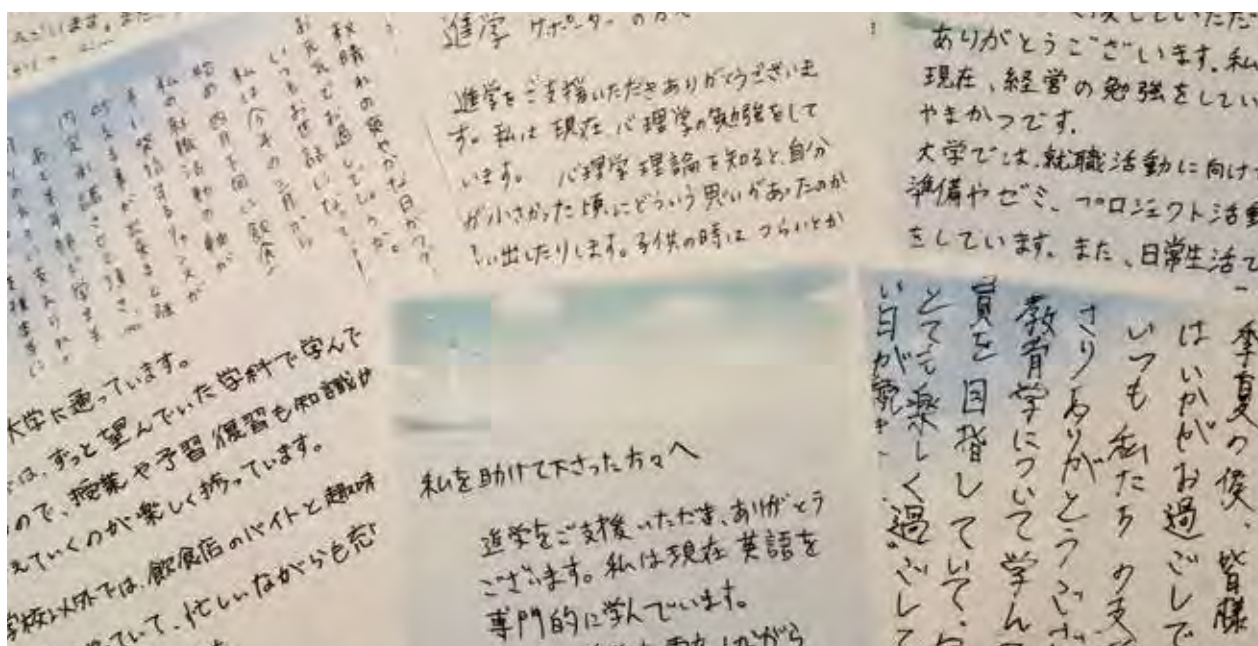
(川順不同)

助成先団体紹介



私たちは、お金が世の中にまわる仕組みづくりを続けることで、いつかきっと日本に「寄付の文化」が広がり、やさしいお金が循環していく未来があると信じています。

児童養護施設出身の子どもたちに 進学支援金を給付



助成金目標額3,075,000円を達成することができ、公募により社会的養護施設出身の学生51名に一人当たり6万円の返済不要な進学支援金を届けることができました。

タイガーマスク基金が支援している学生の多くは高校卒業後、施設を出て一人暮らしをしています。帰る家もなく、仕送りをしてくれる家族もないため、アルバイトを重ねながら大学に通っています。10代の若者が家賃や生活費のために働きながら大学生活を継続していくことは私たちが想像する以上に困難なことです。

タイガー進学支援金は用途を学費に限定していないため、教育実習や就職活動のためのスーツやカバン、靴などの購入や交通費に充てるなど、学生たちのニーズに合わせたサポートができます。

「顔も名前も知らないのに自分たちのことを信じて応援してくれる人がいる」ということが、学生

たちには大きな励みとなっています。学生たちからは、「教師になって子どもたちの夢を叶えたい」「児童養護施設の職員になって子どもたちの心に寄り添いたい」などの声が届いています。「今度は自分が後輩たちのために」と初任給から寄付を送ってくれた卒業生もいます。

皆さまのあたたかいお気持ちは、経済的な支援だけでなく、彼らの心の成長も育てていることをお伝えし、学生たちを代表して心からの感謝を申し上げます。



特定非営利活動法人
タイガーマスク基金
助成申請額： 3,075,000円
達成額： 3,075,000円
〒113-0021
東京都文京区本駒込3-10-3
HP: <http://www.tigermask-fund.jp>

困難を抱える少女たちに居場所を提供



一般社団法人Colaboでは、孤立状態にあり、自ら支援の窓口足を運ぶことが不可能な少女を発見し保護する「一時シェルター」と中長期的な自立支援を行う「中長期シェルター」を運営しています。

「一時シェルター」では、緊急保護や食事・風呂などの基礎的な支援や宿泊支援に加え、警察や行政などへの同行支援なども行います。「中長期シェルター」では、児童養護施設や里親家庭、少年院などを退所した後に行き場をなくした少女や、公的機関で適切な支援を利用することができなかった少女などを受け入れています。軽度の知的障害や精神疾患を抱えている少女や、中卒者、中学や高校の不登校者も少なくありません。当法人の自立支援によってシェルターを退所後は、社会的養護を受けて暮らす、仕事をしながら一人暮らしを始める、医療や福祉制度を利用しながら生活を続けるなどしています。

社会的孤立状態にある少女に対する社会的な養護や支援は、依然機能していない現状があります。虐待や性被害に遭いながら、SOSを出しても適切に対応されなかったことがきっかけで、さらに危険な状況の中で生活している少女たちと日々出会っており、シェルターの必要性は高まっています。

2019年度は、少女たちが中長期的に暮らす第二シェルターを新たに3か所確保し、順次運営をスタートさせましたが、まだまだ受け皿が足りません。活動を通して少女たちを取り巻く現状も社会に訴え、変えていきたいと考えています。



一般社団法人Colabo

助成申請額： 5,358,500円

達成額： 5,032,544円

HP: <https://colabo-official.net>



DVや虐待など問題を抱えた人々に シェルターを運営



このシェルター事業へのご支援により、自治体
が対応していない土日相談者を保護することが
可能となりました。駆け込み寺での相談・保護によ
り、相談者の状況がより把握できるようになった
と同時に、相談者自身も自分を見つめ直す時間
を持つことで状況整理へと導くことができました。

帰る場所がある、話せる人がいる、自分を気
にかけてくれる人がいる、という安心感を常に持
つてもらうことで、相談者も徐々に自立していき
ます。長期の入居者には、就職活動等と並行して、ボ
ランティアとして簡単なデータ作業・清掃活動など
に参加していただきました。その結果、人や社会
に関わることへの苦手意識が減少し、シェルター
を退去した後も自立に向けて前向きに生きていく
方が増えました。

このような活動を1年間やり遂げることができ
ましたのも、私共の活動にご賛同・ご支援いた

いた寄付者の皆様のおかげです。温かいお言葉
にも日々励まされました。

シェルター事業を通して、沢山の企業と協力
関係を築くこともでき、多くの方々に支えられて
いると改めて実感しました。

ご支援してくださった皆様、本当にありが
とうございました。これからも駆け込み寺はた
ったひとりのあなたを救う活動に精進して参
ります。



公益社団法人日本駆け込み寺

助成申請額： 1,500,000円
達成額： 1,377,756円

〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2丁目42-3 林ビル1F
電話：03-5291-5720
HP：<http://nippon-kakemidera.jp>

不登校の子どもたちにフリースクールを運営



クリエイトは2006年よりフリースクールを運営し、2016年にNPO法人となりました。様々な理由で地域の小中学校とは違う学び場を求めて来る子どもたちと併走しています。2019年度は通年の利用児童生徒3名、海外から来日して一時的に通ってきた子ども9名、相談や見学、体験に来た家族7組、その他放課後英語クラスなどで情報提供した家庭20組と共に過ごしました。

お金をまわそう基金の助成先団体になり、最初に意識したのは効果的な広報活動です。「ここに子どもたちの居場所がある。ここへ、ここから一歩踏み出すことは恥ずかしいことや失敗ではなく、子どもたちの将来と地域の未来につながる美しいチャレンジだ」と伝えることが、広報の意義であると認識しました。広報活動により2020年4月から新たに3名の児童生徒を受け入れることになりました。

また、以前から導入したいと願っていた教具、遊具等を使うことができるようになりました。子どもたちの学習環境のニーズは刻々と変わっていくため、教材等の更新と充実はとても重要で、ありがたい変化でした。

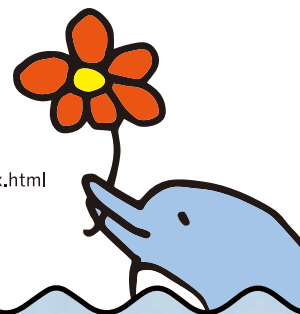
もう一点、資金の安定によりスタッフの研修が充実しました。今年は研修を通してスタッフ1名が教員免許を取得できました。運営側の技術向上は、子どもたちの生活の質の向上と直結します。子どもたちの前向きな学習や心理的な安定が実現され、保護者の安心感も増しています。助成金から得た多くの成果について、スタッフ一同心から感謝申し上げます。



特定非営利活動法人クリエイト

助成申請額： 2,675,000円
達成額： 2,658,044円

〒769-2402
香川県さぬき市津田町鶴羽1250-5
HP：<http://www.npokurieito.org/index.html>



就学の機会に恵まれない子どもたちに 無料塾を提供し、学力向上と進路保証を



NPO法人福岡教育サポートは、経済的な理由のため塾に通えない子どもたちに、学力とともに進路を保証することを目標に、無料塾を開いています。

2019年は、小学生から高校生まで10名近くの児童・生徒に無料で学習会を行うことができました。1名の高校3年生は防衛大学一次入試に合格、国立大学入試合格に向けて学習に励んでいます。合格すれば当塾初の国公立大学への入学者となります。

貧困世帯への学習支援の目標は概ね達成できています。生徒たちの意欲とボランティア講師陣の熱意により子どもたちの学力は一定程度向上しています。

課題は本事業が周辺地域に十分に周知されていないことです。タウン誌やチラシ等で無料塾への参加を呼びかけてはいますが、一般の塾との差異がわかりにくいいため、なかなか生徒数の増加にはつながりません。

2019年は教室を1ヵ所増やし「お金をまわそう基金」の助成金をその教室の利用料等に充てることができました。現在は3教室で無料塾を運営しています。また、助成金のおかげで、授業料を徴収する有償生徒の割合を減らし、無料生徒枠を拡大することができました。ご寄付くださったみなさまに心から感謝しております。今後も、子どもたちが夢をあきらめることなく、希望する進路に進めるよう、学力向上と進路保証に寄与してまいります。



特定非営利活動法人福岡教育サポート

助成申請額： 429,600円
達成額： 429,600円

〒816-0863
福岡県春日市須玖南8丁目54番2-202
HP: <http://fukusapo.wixsite.com/fukusapo/about>



子どもたちがより良い未来へ羽ばたけるよう 貧困と空腹を解決



「寺子屋食堂」は2019年4月から93回実施(11月時点)し、のべ1,000名、1日平均11名が参加しました。皆さまからのご寄付は、子どもたちの食事(お弁当)に充てさせていただいています。

今年は、高校3年生4名が全員推薦入試で第1志望の大学に合格しました。東京理科大学薬学部、専修大学経営学部、関東学院大学理工学部、神奈川工科大学情報学部が進学先です。この内1名は父子家庭の男子で、当団体に来た1年半前は学校にお弁当を持って行くことができず、夜になると通学で利用する駅近くの子ども食堂を「巡回」していました。高校卒業後は「自殺したい」と言っていた彼が大学に進めることになったのは、非常に大きな成果だと思われます。また、中学2年生1名が英検4級に合格しました。自宅学習時間ゼロだった生徒が、教場の雰囲気触発され、学習意欲に火が付いたものと考えられます。

このような実績を残せたのは、多くの方から頂戴したご寄付のおかげです。また、優秀で意欲的なボランティアが38名も参加してくれたことも大きく、スキルを持った社会人ボランティアの増加が実績に繋がりました。

一方で、食事のみが目的の一部の生徒の指導に苦慮するなど反省点もあります。子どもたちの目的意識を学習に向かわせるため、さらなる活動に努めてまいります。



特定非営利活動法人川崎寺子屋食堂

助成申請額： 1,664,480円

達成額： 1,297,825円

〒214-0013

神奈川県川崎市多摩区登戸新町444

フラッツアミ207

HP: <https://terakoya.or.jp>

持続可能なローカルメディア運営のノウハウを「まちづくり」につなげる



横浜市青葉区に拠点を置くローカルウェブメディア「森ノオト」の書き手は、地域で暮らす生活者たちです。等身大の声は読者の共感を呼び、持続可能な地域社会とその担い手の育成に寄与しています。現代社会において、実は情報発信にコストがかかっていること、またその回収のために、利用者は知らず知らずにクリック広告やデータ提供によってコストを支払っていることは意外と認識されていません。私たちは広告やアクセス増のためのテクニックに左右されない、生活者に寄り添った真摯な情報を届けるため、共感者が地域でリアルに出会い交流できるコミュニティを育てています。

2019年にお金をまわそう基金の支援が決定し、6月以降はSNSを通じたキャンペーンと共催セミナーを2回開催。森ノオトのコンセプトに共感くださった方からの寄付や、メディア関係者とのつながりが生まれ、新聞に大きく取り上げられるなどの

効果がありました。寄付者との交流会も4回実施し、その様子を発信することで、寄付者コミュニティへの関心も高まってきているように感じます。2019年12月末日時点でマンスリーサポーターは70名から101名に増えました。

「寄付で支えるローカルメディア」をコンセプトに、全国的な関心や広がりを高めていくためにも、お金をまわそう基金を通して、共感してもらえるようにメディアで発信していこうと思います。



特定非営利活動法人森ノオト

助成申請額： 1,200,000円
達成額： 102,913円

〒227-0033
神奈川県横浜市青葉区鴨志田町818-3
HP: <http://morinooto.jp>

2022年北京パラリンピック大会を目指して 新たな選手を発掘



パラアイスホッケーの競技人口は2018年3月時点で約60名、そのうち障がいを持った選手は50名程です。日本代表選手はこの50名の中から選抜されますが、一部の選手が長く競技を支えているのが現実であり、若手選手の発掘と育成が喫緊の課題となっています。新たな選手の発掘のために各地で体験会を開催してきましたが、その都度クラブチームからスレージを借りるなど、開催までに時間がかかる上十分な台数が揃えられないこともありました。そこで「お金をまわそう基金」の助成金を活用し、10台のスレージのほかヘルメットやスティックなどの競技用具を購入しました。

同じ時期に、名古屋市でパラアイスホッケーの活動を始めたいという声がありました。新チームの設立を目標に掲げ、名古屋市に集中して体験会を開催。延べ100名程に体験して頂きました。集中的な活動が功を奏し、2019年9月に東海地方では初めてのパラアイスホッケーチームである「東海ア

イスアークス」が結成されるに至りました。

同チームに選手やスタッフとして登録されている人の多くは体験会の参加者です。体験会では日本代表選手による競技デモンストレーションや指導を行ったため、「日本代表を目指したい」とチームに参加した選手も見られました。体験会の回数は目標を達成できませんでしたが、新チームが設立されたことはそれを超える成果でした。



一般社団法人
日本パラアイスホッケー協会

助成申請額： 1,500,000円
達成額： 281,550円

〒107-0052
東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階
日本財団パラリンピックサポートセンター内
HP:<http://sledgejapan.org>

日本文化を広める「能」の海外公演



ブルガリアや北マケドニアが位置するバルカン半島では、これまでに能の公演が実施されたことがほとんどありません。バルカン半島の国々は、ローマ帝国時代からの長い歴史を持ち、伝統的に親日家が多く、日本文化への関心が高いにも関わらず、国が貧しく、日本との距離が離れているため「本物の日本文化」が紹介される機会がこれまで極めて少なく、現地の人々は「本物の日本文化」を渴望しています。

2019年は、日本とこれらの国々との様々な交流の節目の年にあたるため、特別な能の公演を実施し、相互理解を深めることで、日本との国際親善を推進させて頂きました。9月25日のブルガリアのスタラ・ザゴラ市の公演からはじまり、10月8日の帰国まで、約3週間にわたる長い海外ツアーになりましたが、全ての公演が、ほぼ全ての現地メディアから取材を受けるなど、大きな反響をよび、大成功をおさめることができました。

また、日本経済新聞の論説委員とカメラマンが約1週間同行取材し、今回の海外公演の様子を2019年11月7日付の日経新聞全国版で3ページにもわたるカラーの特集記事を掲載していただけたことも大変有難いことでした。一重にご後援のみなさまのお陰と心より感謝申し上げます。「お金をまわそう基金」を通じてのご寄付は、海外公演の渡航費の一部とさせていただきます。誠にありがとうございました。

公益財団法人
山本能楽堂

公益財団法人山本能楽堂

助成申請額： 2,000,000円

達成額： 81,940円

〒540-0025

大阪府大阪市中央区徳井町1丁目3-6

HP: <http://www.noh-theater.com>



難病児とご家族に夢の旅行を提供



現在、日本では15万人を超える子どもたちが難病と闘っていると推計されています。公益社団法人ア・ドリームア・デイIN TOKYOは、ターミナルステージに至る、またはそのおそれのある病気と共に生きる難病児や、希少難病児・医療的ケア児とその家族に、夢を実現する旅行のお手伝いをしています。「みんなと一緒に学校へ行きたい」「旅行に行きたい」など、難病と闘う子どもたちは、あたりまえの望みが叶えられないことが多く、本人はもちろん、両親や兄弟姉妹も社会との接点が希薄になりやすい傾向にあります。

ア・ドリームア・デイ IN TOKYOでは、これまで90組のご家族を東京へ招待してきました。病気の種類や家族構成が違っても楽しめるよう、病児本人だけではなく兄弟姉妹の希望も尋ねてフルオーダーの旅程を組み、夢の時間を家族一緒に過ごしていただいています。事業は非常に好評をいただき、昨今は待ち時間が2年近くまで延びてい

ます。一人でも多くのお子さんを一日も早く招待するため、待ち時間短縮が喫緊の課題となっています。

2019年は、お金をまわそう基金を通していただいたご寄付で、2家族11名を当初の予定よりも早く招待することが出来ました。日常を離れて楽しい時間を過ごしていただくことで、旅行から帰った後も新たな希望とともに笑顔で過ごす時間を増やしてほしいと願って活動を続けています。



公益社団法人
ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO

助成申請額： 1,200,000円
達成額： 874,127円

〒141-0021
東京都品川区大崎3-10-59 ヴィラゾン202
HP: <https://guesthouse.or.jp>



重症心身障害の子どものための 放課後等デイサービス



「NPO法人秋川流域生活支援ネットワーク」は秋川流域（東京都あきる野市、日の出町、檜原村）で唯一の重症心身障害児向け放課後等デイサービス「わいわいくらぶ」を運営しています。

1日あたりの子どもの定員は5名。現在は小1～高2までの15名が登録していて、曜日ごとにローテーションを組んでいます。本来はスタッフ4名の配置で良いところ、入浴サービスも含めより手厚くきめ細やかなケアのため6名体制で運営しています。お金をまわそう基金の助成金は、運営費の一部として大切にに使わせていただきました。6名体制を維持できるのも、多くの方のご支援のおかげと心から感謝しています。

理念は「子どもの『笑顔』を第一の評価とすることです。重症心身障害の子どもは感情の表出が難しいと思われがちですが、ここの子どもたちはよく笑ってくれます。それは何よりスタッフが愛情

豊かに、そしてスタッフ自身も楽しんで子どもたちに向き合っているからだと思います。保護者からも子どもがここに来ることを楽しみにしているという声をよく聞きます。ここが子どもたちにとって「幸せで居心地の良いもう一つの居場所」になるよう、これからもスタッフ一同全力で子どもたちに向き合っていきます。



特定非営利活動法人
秋川流域生活支援ネットワーク

助成申請額： 1,465,310円
達成額： 344,689円

〒197-0827
東京都あきる野市油平98 第一中村ビル301号
HP: <http://www.akigawa-net.org/index.html>

ケートなどの調査を実施。その結果を踏まえ、課題解決の糸口を提案していただきました。『当財団を入り口とした支援者の傾向』、『一般支援者の傾向』、『助成先団体からみた寄付プラットフォームへの期待』等が明確に示され、当財団の特徴を活かしつつ、より共感や信頼を得るための方向性を把握することができました。



インターンシップで学ぶ

東北福祉大学の澤尻雄飛さん(当時大
学3年生)をインターンシップで迎
えました。助成先団体である『公益社団

法人日本駆け込み寺』と『一般社団法人Colabo』のご協力のもと、5日間にわたる研修を通して、お金をまわそう基金が取り組む助成事業について学んでいただきました。

若く社会貢献に対して高い志を持った学生に、当財団の活動や助成先団体の活動を知ってもらう貴重な機会となりました。

―東北福祉大学 総合福祉学部 福祉行政学科 澤尻雄飛さん(当財団プログラムの一部を抜粋)

私は、大学生活で数多くのボランティアに参加してきましたが、『公益社団法人日本駆け込み寺』『一般社団法人Colabo』へ伺わせていただく、社会には私が考えられないほどの人生の悩みやトラブルが存在しており、社会貢献という奥の深さを非常に強く感じることができました。5日間を通して学んだことを今後の大学生活や就職活動へと活かし、いずれの仕事に就くにせよ信念・志を持った人間として社会を生きていきたいと思えます。



東北福祉大学
総合福祉学部 福祉行政学科
澤尻雄飛さん

助成先団体の活動を伝える訪問記録

第4期では助成先団体の活動をより理解し、当財団スタッフの言葉で支援者に伝えて、より「自分ごと」に感じてもらうことを目的に、助成先団体への訪問を実施しました。訪問記録はお金をまわそう基金ホームページ『活動報告』に掲載しています。

お金をまわそう基金活動報告：<https://okane-kikin.org/information/c/activit-report>

Colabo

東京都

少女たちを取り巻く社会の問題を発信することの重要性を教えてくださいました。

秋川流域生活支援ネットワーク

東京都あきる野市

「子どもの笑顔が第一の評価」子どもたちはとても安心していて幸せそうな笑顔でした。

山本能楽堂

大阪市中央区

国登録文化財の能楽堂で、能楽を世界に発信する意義をお聞きしました。

福岡教育サポート

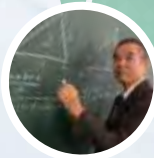
福岡県春日市

大学生のボランティア講師の熱意が、生徒たちの進学への夢を支えていました。

クリエイト

香川県さぬき市

授業風景を見て、クリエイトの教育方針『あなたの居場所はここにある』を実感！



きもちのぜいたく

人とつながり、お金をむすぶ

お金をまわそう基金の活動報告。

アースデイ東京2019に出展

代々木公園で開催された『アースデイ東京2019』に助成先団体と協力して出展しました。『アースデイ』は1970年に始まり、世界175カ国、約5億人が参加する世界最大級の地球フェスティバルです。

『アースデイ東京2019』は11万人が来場しました。当財団では、複数の助成先団体とともに、寄付やお金の流れを意識するきっかけづくりや、



助成先団体の活動に関心を持っていただくなどを目的にブースを展開し、助成先団体の活動について説明をさせていただきました。おかげさまで多くの方に「賛同いただき、助成先団体の活動の大切さについて知っていただくことができました。」

認定NPO法人サービスマンと共同調査

第4期は認定NPO法人サービスマンと共同で『マーケティング基礎調査』を実施しました。

サービスマンプロジェクトメンバーは、それぞれが専門としているマネジメント、調査、マーケティングなど、さまざまな角度から当財団の課題にアプローチしてくださいました。当財団の『寄付文化を醸成し、できるだけ多くの方から寄付を集めたい』という目的に対して、日本の寄付意識、当財団の魅力や認知度、寄付状況や助成先団体の関わり方、当財団の関係者や外部有識者のヒアリング、ホームページアクセス解析、関係者アン

【〇】（えん）

「ご縁」と「円」を積み重ね、寄付で社会にお金が循環する仕組みをつくりまします。

ア・ドリームア・デイIN TOKYO

東京ディズニーランド

安全な旅行のためのボランティアマニュアルに、これまでの活動の積み重ねを感じました。

日本駆け込み寺

新宿区歌舞伎町

行き場を失った人の相談の様子を目の当たりにして、シェルターの必要性を実感しました。

川崎寺子屋食堂

神奈川県川崎市

学ぶことと食べることを通じて「生きること」を教える現場に感動！

タイガーマスク基金

東京都文京区

学生のお礼の手紙から、奨学金給付の活動がいかに学生を励ましているかがわかりました。

日本パラアイスホッケー協会

愛知県名古屋市

『氷上の格闘技』を実際に体験。日本選手の北京パラリンピックへの情熱を肌で感じました。

森ノオト

横浜市青葉区

ローカルメディアが「まちづくりの担い手」を育て、地域ブランドを創出しています。

決算報告

正味財産増減計算書

2018年12月 1日から2019年11月30日まで

公益財団法人お金をまわそう基金

(単位：円)

科 目	当年度（第4期）	前年度（第3期）	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	207	0	207
受取寄付金	41,239,262	29,732,363	11,506,899
経常収益計	41,239,469	29,732,363	11,507,106
(2) 経常費用			
事業費	36,129,060	24,899,815	11,229,245
管理費	5,215,862	4,832,548	383,314
経常費用計	41,344,922	29,732,363	11,612,559
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 105,453	0	△ 105,453
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 105,453	0	△ 105,453
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 105,453	0	△ 105,453
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	△ 105,453	0	△ 105,453
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	55,168,349	41,443,000	13,725,349
特定資産運用益	207	189	18
一般正味財産への振替額	△ 41,228,439	△ 29,708,158	△ 11,520,281
一般正味財産への振替額	△ 41,228,439	△ 29,708,158	△ 11,520,281
当期指定正味財産増減額	13,940,117	11,735,031	2,205,086
指定正味財産期首残高	20,057,297	8,322,266	11,735,031
指定正味財産期末残高	33,997,414	20,057,297	13,940,117
III 正味財産期末残高	33,891,961	20,057,297	13,834,664

貸借対照表

2019年11月30日現在

公益財団法人お金をまわそう基金

(単位：円)

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	3,675,637	未払金	3,680,040
未収金	5,050	預り金	250,500
他会計へ振替	0	他会計から振替	0
前払費用	0	流動負債合計	3,930,540
流動資産合計	3,680,687	負債合計	3,930,540
2. 固定資産		III 正味財産の部	
(1) 特定資産		1. 指定正味財産	
子ども分野指定寄付	8,373,337	寄付金	33,997,414
スポーツ分野指定寄付	7,950	指定正味財産合計	33,997,414
文化・伝統技術分野指定寄付	39,960	(うち特定資産への充当額)	(33,997,414)
地域社会分野指定寄付	805,523	2. 一般正味財産	△ 105,453
財団運営指定寄付	0	正味財産合計	33,891,961
財団運営費(公益目的事業)	19,881,053	負債及び正味財産合計	37,822,501
財団運営費(法人管理)	4,889,591		
特定資産合計	33,997,414		
(2) その他固定資産			
什器備品	144,400		
その他固定資産合計	144,400		
固定資産合計	34,141,814		
資産合計	37,822,501		

監査報告書

令和2年1月31日

公益財団法人 お金をまわそう基金

代表理事 澤上 篤人 殿

公益財団法人 お金をまわそう基金

監事 柴原 一



私は、平成30年12月1日から令和1年11月30日までの事業年度における理事の職務を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等(貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録)について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。

② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

受取寄付金の内訳

第4期	
財団運営費	34,464,167
子ども分野	18,927,882
スポーツ分野	289,500
文化・伝統技術分野	86,500
地域社会分野	1,400,507

指定正味財産の受取寄付金の内訳です。助成団体を指定され寄付されたものは、属する分野に合算しています。

寄付の取り扱いについて

寄付の種類と使いみち

助成先団体を使途指定した寄付は、100%を助成金としてご指定の団体へお届けします。分野を使途指定した寄付は、寄付金の70%を当該事業年度に指定された分野の団体へ助成し、残りの30%は翌事業年度以降の指定された分野の団体へ助成します。詳細につきましては、以下よりご確認ください。

寄付の種類

当財団で受付している寄付の種類は次の4つです。

(1) 個別団体への指定寄付

当財団が助成先として選定した団体の中から、寄付者が個別団体を指定して寄付することができます。

(2) 分野への指定寄付

寄付者が分野(子ども分野、スポーツ分野、文化・伝統技術分野、地域経済・地域社会分野)を指定して寄付することができます。指定された分野に属する団体へ助成をいたします。

(3) 運営費用への寄付

寄付者が当財団の運営費用への寄付を指定することができます。

(4) 一般寄付

上記の1、2、3の使途を特定せずに寄付されたものは、一般寄付として取り扱います。

寄付の使いみち

(1) 個別団体への指定寄付

寄付金の100%を当該事業年度に指定された団体へ助成します。

ただし、以下に該当するときには指定された団体が属する分野の助成財源とします。(以下「特定資産」という。)

- ・当該事業年度に募集している金額を上回る寄付金があったときの超過分
- ・実際に事業で使用した金額よりも助成金額が上回る寄付金があったときの超過分
- ・助成先団体として取り消したときの全額

(2) 分野への指定寄付

寄付金の70%を当該事業年度に指定された分野の団体へ助成し、残りの30%は特定資産とします。ただし、当該事業年度に指定された分野で70%を助成金として使用できない場合、その寄付金は特定資産とします。

(3) 特定資産

特定資産は分野ごとに管理し運用します。毎年、事業年度末日時点の評価額を求め、その評価額の10%を翌事業年度の分野に属する団体へ助成します。なお、助成先団体への指定寄付のうち、募集金額を上回る寄付金があり、特定資産としたものも同様です。特定資産は預貯金、債券、投資信託などで運用し、総額および具体的な運用方法については、随時、公表します。

(留意事項)

・特定資産の運用につきましては、運用する商品によって値下がりなどの各種リスクがございます。そのため、寄付時点よりも評価額が増加もしくは減少することがあります。

(4) 運営費への指定寄付

当該事業年度の公益事業費、もしくは法人管理費とします。

公益事業費とは、公益事業の目的を達成するための費用です。法人管理費とは、法人の事業を管理・運営するために毎事業年度経常的に要する費用です。当該事業年度の寄付額が前述の費用を上回った場合は、翌事業年度に繰り越します。

(5) 一般寄付

一般寄付は、運営費への指定寄付として使用します。

(6) 寄付金の返金


寄付金の返金はいたしかねます。

寄付のお支払い(決済)

寄付のお支払いにつきましては、【今回のみ寄付の場合】クレジットカード、または銀行振込を選択いただけます。【サポーター(毎月継続)の場合】クレジットカード、または口座振替を選択いただけます。他に、郵便振替、Yahoo! ネット募金、ソフトバンクつながる募金、チャリボンなどでも寄付ができます。

インターネットでの寄付

パソコンやスマートフォン、タブレットなどから寄付を受け付けています。または電話で受け付けています。

<http://okane-kikin.org> インターネット検索 **お金をまわそう基金** 

電話番号 03-6380-9864 (平日10時から17時)

銀行振込/ゆうちょ銀行振込による寄付

銀行振込/ゆうちょ銀行振込の場合は指定の口座へお振込みください。

銀行名	みずほ銀行	支店名	銀座支店		
口座種類	普通	口座名義	公益財団法人お金をまわそう基金		
口座番号	子ども分野	スポーツ分野	文化伝統 技術分野	地域経済 地域社会分野	当財団運営費
	4037572	4037580	4037599	4037602	4037610

※ 現在寄付を受け付けている分野・団体については必ず、当財団までお問い合わせ下さい。

※ 上記口座番号は「分野」もしくは「当財団運営費」へ指定寄付となります。個別団体への指定寄付をご希望の場合は当財団までお問い合わせ下さい。

口座記号番号	00120-3-0292930
加入者名	公益財団法人お金をまわそう基金

(留意事項)

- ・ゆうちょ銀行による寄付をご希望される場合は、「専用の払込取扱票」がございますので当財団までお問い合わせください。
- ・寄付をご希望される場合は、現在寄付を受け付けている分野・団体について必ず当財団までお問い合わせください。
なお寄付の使途を指定していない場合は「一般寄付」として取扱いたします。
- ・10万円以上のお振込みの場合は本人確認ができる身分証明書を窓口にご持参ください。
- ・領収書を希望の方は当財団までお問い合わせください。

その他の寄付の方法


クレジットカード、銀行振込、口座振替以外の寄付の方法として以下の方法をご用意しております。

YAHOO! JAPAN ネット募金

ヤフー株式会社が運営するネット募金サービスです。Tポイントやクレジットカード決済で寄付できます。
(寄付金は子ども分野の指定寄付となります。) <http://bit.ly/yahoo-okane>

charibon

古本等をリユース会社で買取り、その買い取り代金を寄付することができます。
(寄付金は子ども分野の指定寄付となります。) <http://bit.ly/charibon-okane>

 **つながる募金**

ソフトバンクユーザーであればソフトバンクの利用料金と一緒に寄付やTポイントで寄付することができます。
(寄付金は当財団運営費の指定寄付となります。) <http://bit.ly/tsunagaru-okane>

税金控除

当財団は、内閣府から税控除の資格を有する公益法人として認定されています。
そのため、寄付金は税法上の優遇措置を受けることができます。





公益財団法人
お金をまわそう基金

〒102-0082 東京都千代田区一番町29番地2

電話：**03-6380-9864** / FAX：**03-6380-9865** ※お電話の受付は平日10:00～17:00です

HP：<https://okane-kikin.org> Mail：info@okane-kikin.org